

| 第1回 氷見市総合計画審議会第2部会 会議録 | | |
|------------------------|---|---|
| 日時 | 令和2年11月24日（金） 13時30分から15時30分まで | |
| 場所 | 氷見市役所 全員協議会室 | |
| 出席者 | 委員 | 上田兵吾（代理：笠島）、河上昌俊、河原朱里、瀬戸健、高木陽子、中西務、西川扇博、野畑圭造、吉崎一美（出席9名） |
| | 市関係職員等 | 京田企画政策部長、事務局（地方創生推進課） |
| 次第 | 1 開会 2 企画政策部長あいさつ 3 第2部会委員の紹介 4 議事 (1) 会長及び副会長の選出 (2) 諮問 (3) 第9次氷見市総合計画の策定について (4) 氷見市の現況等説明について (5) 意見交換について 5 その他 6 閉会 | |
| 資料 | 【説明資料】 資料1 氷見市総合計画 体系図 資料2 第8次氷見市総合計画後期基本計画進捗状況 資料3 氷見市の10年後を見据えて 【参考資料】 冊子 第8次氷見市総合計画 冊子 第8次氷見市総合計画 概要版 冊子 氷見市の10年後のありたい姿 | |

1 開会

（司会）

定刻となったので、ただいまから、第1回氷見市総合計画審議会第2部会を開催する。

2 企画政策部長あいさつ

（企画政策部長）

皆さんには、多用の中、第1回氷見市総合計画審議会第2部会に出席いただき、御礼申し上げます。

また、日頃から、市政の発展に格段の支援、協力を賜り心から感謝申しあげます。

さて、9月25日に第1回氷見市総合計画審議会が開催され、市長から第9次氷見市総合計画の策定について諮問された。

本計画について市長からは、人口減少や高齢化社会に対応した第2期「氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、新型コロナウイルス感染症などに伴う社会環境の大きな変化などを踏まえ、氷見市の将来に向けた計画となるよう、委員の皆さんに審議をお願いしたところである。

本日の第2部会においては、「10年後のあるべき姿（基本理念）」「10年後のあるべき姿を実現するために注力すべき柱（基本目標）」に関する事項について、議論いただきたい。

委員の皆さん方におかれましては、忌憚のない建設的な意見などを賜りたい。

(事務局)

資料について説明・確認

3 委員の紹介

出席者、委員代理出席者の紹介

4 議事

(1) 計画体系図について

(2) 第8次氷見市総合計画後期基本計画の進捗状況について

(事務局)

議事進行は、部会長にお願いする。

(部会長)

これからのお話しが氷見市の大事な振り返りあるいは成長の貴重な話し合いになる。ぜひ、委員の皆さんから貴重な意見をたくさん出して頂ければと思う。どうぞ、よろしく願います。

(委員)

先般、テレビおよび新聞を見ていたら、氷見市の若い女性の意見で、働きたいが働いている間子どもを安心して預けることができる施設の整備、充実が今後更に必要であるという風に言っていた。それから、学校に行っている子どもを預けることができる学童保育の施設整備、強化されていることが、必要であるという発言もあった。市としても一生懸命していると思うが、そういう意見があることを踏まえて計画の中でも更に進めていく必要があると思う。氷見市の大きな課題の1つは、人口が減少していること。個人的に思うのは、教育環境が大事であると考えます。教育にすごくお金がかかり、親の負担としては非常に大きい。こういったことも人口が増えていかない1つの原因ではないかと思う。

(部会長)

まずは、次第にしたがって説明して頂いて、意見交換は後ほど行う。議題（１）「計画体系図について」から進めていきたいと思う。

まずは、資料１「氷見市総合計画体系図」および資料２「第８次氷見市総合計画後期基本計画の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。

(事務局)

「資料１ 氷見市総合計画 体系図」「資料２ 氷見市総合計画後期基本計画進捗状況」を説明

(部会長)

それでは、今の説明に対して、意見や質問があればお願いします。

(委員)

この評価の評価者はだれか。

(事務局)

こちらはK P Iの数値に基づいて評価している。K P Iの数値と達成状況を鑑みて、達成率を算出し、100%以上は4点、60%以上は3点という風に点数化し、その点数に基づいて、A、B、Cの評価を行っており、点数による機械的な評価である。

(委員)

自分の達成感等、人が判断するのではなく、基準値による評価か。

(事務局)

目標値に対してどれだけ達成できているかという評価になる。K P Iの中にはアンケート調査に基づくものもある。それは、回答者の主観的なものになるのですが、そのアンケートでもこの回答が何%以上あるとか、何%以上になるという目標値を定めてその目標の達成状況によって点数評価を付けている。

(委員)

中には、そういう項目もあるということか。

(委員)

A評価については、来年度まず達成できる見込みがあるのかなと思う。例えば、来年度達成できる見込みのものは外して、施策として出していないもの、他に力を入れるべきものを入れることは可能か。

(事務局)

こちらの設定した目標数値が実際にしていることの成果として、計る数値として適当なのか否かという議論はあるが、基本K P Iの目標数値が達成できていない原因は何なのか、今行っている事業が良くないからか、それともなかなか成果につながらない事業なのか、いろいろあると思う。そのような事業について、それぞれ小施策にはいくつもの事業が紐づいており、その目標に向かってそれぞれの事業を実施している。事業の継続や見直しなどを行ってもこれ以上効果が上がらないと思われるものには、事業縮小等の評価を個別に行って

おり、その結果を踏まえて令和3年度の予算要求の際に新規事業として提案、事業を拡充していく、事業の廃止などを決定していく資料になっている。

(委員)

例えば、A評価の事業であればこれから重点的に行わなくても違う事業と入れ替えても良いのではないかと思うが、そういうことができるのか。

(事務局)

実際に行う事業については、効果があるような形で事業を行っていくべきだと思う。A評価のものは同じように行っていれば同じような評価となる事業もあると思うが、一所懸命行ったことでA評価になっているものもあると思う。一概にA評価だから大丈夫だというものでもないし、それを振り替えて別の事業にしたから同じくA評価になるというものでもない。ただ、施策については、総合計画に記載してあるため、これを変えることになるのであれば、審議会に諮って取り組む内容等を変えていく手続きを取っていく必要がある。ただ、施策の中で、どういった事業をしていくかということについては、予算編成の中で決定していく内容だということをご理解を頂きたい。

(委員)

資料の中に結婚のことについて書かれていて、100%となっている。私は100%がどうというより、結婚をしたいけれどできない人がたくさんいるのではないかと考えている。そういう方達をどうやって結婚に結び付けるか考えることが必要だと思う。また、結婚したら、親と同居するか否かである。結婚当初は一時的にアパート等で暮らす場合や新しく家建てる場合もあると思う。氷見市全体の人の流れを見ると西條校下に非常に多くの人が流れてきている。都市計画道路ができて非常に便利になり、家を建てようと思っても農業振興区域の網がかかっている。これについては、第8次後期総合計画の時にも申し上げたが、農業振興区域の網がかかっていると家を建てる際に大変時間がかかる。農業委員会でも他で考えたらどうかと言われると、射水市や高岡市に移ってしまう。それが人口の流出につながっている。そういうことを食い止めていかなければならないと思う。農業振興区域いわゆる用途区域の見直しをして頂きたい。昭和50年の3月以来氷見市は用途区域の見直しを行っていない。随分時間が経っているので、今見直しをしていくべきだと思う。これは、都市計画審議会にかけ、連携していかなければならない。産めよ増やせということも大事ですが、氷見市以外のところに人が流れていくのを止めなければいけない。氷見市に住みたい、大学生等県外に行っている人は郷里に帰ってきたい等、そういう地域にしていかなければならないのではないかと思う。

(事務局)

第9次氷見市総合計画を考えていく上でも土地利用については大変重要な部分である。第8次氷見市総合計画の冊子の78ページ、79ページをご覧いただきたい。こちらに土地利用についての記載がある。第9次氷見市総合計画においても適正な土地利用について、取り入れていかなければならない視点だと思っている。その中で、都市計画マスタープラン

の見直し等も出てくると思うので、対応していけたらと思っている。先ほど、委員が言われた結婚に対する施策の評価の点については、施策評価シートの18番にある。こちらは、結婚の希望を叶える環境づくりの小施策の1番として、「結婚しやすい環境整備」の中で結婚に関する各種セミナーへの参加者が結婚を希望するようになった割合ということと「結婚に対する支援の充実」で縁結びおせっかいさんや婚活イベントなどにより婚姻に至った件数を目標としている。その目標件数が2件に対し、実績として2019年度は4件であったため、目標に対して倍の結果で、200%という数字になっている。結婚したくてもできない方が結婚を考えられるような施策等も氷見市では行っている。また、結婚をなかなかしなというのはそれぞれの考え方もありますが、結婚したいと思った人が結婚できるような取り組みを氷見市では行っていきたいと思っているため、総合計画でも当然検討していかなければならない。

(部会長)

他に質問、意見はあるか。

(委員)

農業共済新聞に掲載されていたコラムを紹介する。ふるさとに帰りたいと思うふるさとにしてほしいという意見が掲載されていた。自分にとってふるさとが魅力あるものであって欲しいという願いなのだと思うが、それは一体何なのかということ考えた時に、一般論として言えることは、親は自分の子どもには地元に戻ってきて欲しい、特に息子の場合は家を継いで欲しいという願いがあると思う。しかし、なかなか自分に合った職場が無いということになると、親が帰ってきて欲しいと願っても、帰ってこないのが現実である。昨今の実情を見ていると、新型コロナウイルスの関係で民間企業の採用も減らされ、取り消されたりしている状況を見ると、生活の安定を考え、公務員を選ぶ志向が出てくると思う。だからといって、県庁や市役所でどんどん採用する訳にはいかないと思うので、公務員でなくても地元で経済力のある、雇用能力のある企業を誘致すべきだと思う。氷見市は浅野総一郎氏の関係もあり、川崎市とも縁があるから、そういうところの理解と協力を得て、学生に喜んでもらえるような状況を創り上げていくことが必要ではないかと思う。

(委員)

人づくりの2の「生きる力」をはぐくむ教育の充実の中の「1学校教育の充実」について、質問する。今後も今ある学校教育を充実していけば良いと考えているか。それとも今時代がどんどん変わっていく中で今の教育プラスITがこれからは必ず必要になってくる項目だと思う。そちらの評価は何か考えているか。

(事務局)

教育の分野については教育委員会が所管で、詳細なことは分かりかねるが、こちらの分かる範囲で申し上げますと、氷見市はICT教育については県内でも進んでいる市である。学校へのタブレットの導入やその環境整備等は他市に先駆けて行っている。先生方についてもタブレット使用の教材や指導方法について研修等を実施し、取り組んでいる。

その辺りについては、部会長が詳しいと思う。

(部会長)

I C Tの指導については、氷見市のレベルは非常に高く、他の市町村が羨ましがっている状況である。様々な取り組みを行っているが、小、中学校の先生もI C Tの知識が豊富にある。各学校それぞれの学校らしい取り組みをしている。小学校は学年が違って1クラス分の機材があるので、どの子どもも学習ができる状態で、これが氷見市の特長的な教育である。各学校にI C Tに精通した先生が必ずいるので、おもしろい内容を企画して授業に取り入れている。皆さんが住んでいる校区の学校にチャンスがあれば見学させて頂ければ良いと思う。氷見市では、先生方が非常に楽しんでI C Tを使っている。

(3) 基本理念について

(4) 氷見市の10年後を見据えて

(委員)

先ほど、第8次氷見市総合計画の状況について説明を受けたが、基本理念等の説明を受けていないので、この議事に従って、説明をお願いします。

(事務局)

「参考資料 第8次氷見市総合計画P24、第8次氷見市総合計画概要版P6」「資料3 氷見市の10年後を見据えて」を説明

(部会長)

たくさん場面、観点から様々な意見が出て積極性が感じられる。意見、質問があればお願いします。

(委員)

国際化の時代を迎えるということであるが、正にその通りだと思う。英語教育が小学校に導入されているので、大変結構なことだと思う。英語で弁論大会が開かれており、今年は新型コロナウイルス感染拡大により中止になったが、私は、毎年招待されて出席している。その際の挨拶で、外国語を話すことができる人材が多く育って欲しいと伝えている。それは、国連事務局の職員の日本人の比率が非常に低いからである。事務局職員にとって外国語が話せることが非常に大事なことである。日本全体が外国語、特に公用語である英語については、どんどん話せる状況下になっていくと思うが、加えて、国際社会の中で、大いに活躍して頂く、その中に氷見市出身の方がいれば非常にありがたいことだと思う。日本とドイツがスポーツを通じて交流を行っている。今年は、なかったが、一昨年に氷見市でドイツからスポーツ少年団の方男子6人、女子6人の12人が来られ、4泊5日氷見市で過ごして頂いた。氷見市の印象を聞いたら、山もあり、海もあり、皆さん人情味豊かで、こんなに良いところはないと、多少はお世辞もあるかも知れないが、そういう風に言われた。この交流を進めて欲しい。漁業でも外国から研修生がきているが、こういうことをどんどん進めていって国際化に氷見市が対応しているということをこれからも続けて欲しい。我が家でもドイツの2

2歳の女性の方を受入れした。その方が、氷見市をつぶさに見ていかれ、大変良いことだと思う。私は、柳田の区長を4年間していた時に、氷見市をPRするために柳田に外国からお嫁にこられた方に故郷親善大使として委嘱状を渡した。実家に帰った時に氷見市の話しをして頂き、氷見市のパンフレットも持って行って頂きPRをしてもらっていた。その時は日本語で書かれたパンフレットしかなかった。外国語のパンフレットをつくるよう氷見市にお願いしたところ、すぐに対応して頂き、今では日本語だけではなく、英語、ハングル語、中国語がある。国際化に対応した取り組みは、これからいろいろな形で必要になってくる。これは参考までに申し上げた。

(委員)

全国的にも氷見市でも子どもの数が減っていつている。私は比美乃江小学校のPTA会長で、学校は10年程前に統合し、その時には全校生徒650人程いたが、今は400人程である。人数が少ないから統合したが、それでも少なくなっていく、1学年2クラスに満たない状態である。少子化の先を突き詰めていくと、結婚をされない方が増えてきている、子どもを産み育てる環境が整っていないという意見もある。ただ、学童保育は各学校ほとんど実施されていて、預ける場が育っている環境にはなっているが、それでも子どもが増えてこない。今年は、新型コロナウイルス感染拡大により、仕事に行けなくて家にいたという人が結構いたと聞いた。先日の新聞で今年は更に子どもの数が減ると書いてあり、家にいる時間が長くなっても子どもが増える訳ではなく、切実に難しい問題だと感じている。

(委員)

朝日丘の学童保育に日本舞踊を教えに行っている。子ども達の人数は毎年増えている。今年は、発表をすることができず残念だった。希望者だけを募るが、とても意欲的に参加してくれている。年10回程度の教室であるが、子ども達はとても楽しくしている。昨年氷見市で第九があった。私も参加させて頂いたが、とても良い成果で、大盛会で終わった。今年は、歌えなくてもいいじゃないということで、講習会というか座談会が行われ、勉強させて頂いている。このコロナ禍の中でも、自分のやりたいこと、趣味をそれなりの形で、いつものようにはできなが、地道にしている。

(委員)

10年後のありたい姿をみると、第8次氷見市総合計画からみて、第9次氷見市総合計画になるとものすごく幅が広がっているように思う。それだけ社会構造が複雑になっていて、暮らしの面や個々の生活、産業等様々なところで、国全体が難しい時期を迎えていると思う。若者のアンケートの結果を見ると、私達は氷見市で生まれ、氷見市で育ち、特に不都合を感じていないが、若者が何かを求めているのであれば、その意見を取り入れて、更に魅力ある市に切り替えていくことが、10年後のあるべき姿になるのではないかと思う。総合的に見た場合、働く場所と人口減と密接に関わっていると思う。若者は氷見市に働く場所が無ければ帰ってこない。それに対してどうするべきかということも少子高齢化問題よりも優先的に考えるべきである。それに伴って、少子化や人口減少が少しは減り方が緩やかにな

っていくのではないかと思う。様々な方向からアタックしていく必要はあると思うが、項目がたくさんあり過ぎる。どれもこれも一度にはできない。見ているだけで嫌になる。もっと焦点を当てるべきである。それから、評価シートの元気づくりの4番目の将来に夢が持てる雇用の創出の「1 企業誘致の推進と既存企業」の育成の評価がAになっているが、この評価は何の意味があるのか。なぜ、A評価がつくのか不思議である。氷見市には働く場所が少ないのになぜA評価がつくのか。ほとんどの人が氷見市に働く場所がない、魅力ある職がないと言って、高岡市に働きに行っている。その見方をしっかりして、若者の意見を取り入れて欲しい。

(委員)

今の話しについてであるが、子ども達が高学歴になっており、市外の大学に進学している。そうすると氷見市に戻ってこられない。全く働く場がない。私の次男は県外の大学に進学し、卒業後氷見市で就職しようにも全くなく、もし探すとするならば、富山市まで行って探さなければならなかった。結局は愛知県で就職した。氷見市に帰って来ようにも自分が学んだことが全く使えない。高学歴の人が働ける場所が欲しいというのが切実な願いである。長男は医療系だったので、医療は全国にあるので、富山県に帰ってきた。働く場が欲しいと思う。また、食品ロスについても取り組んで欲しいと思う。今年、孫2人に食品ロスを調べる活動に参加させたことにより、食品ロスへの意識が少し出てきた。今まで、前の晩に残っていた食べ物は捨てていたが、最近は朝に食べるようになった。氷見市でも全体的にこういうことに取り組んで欲しい。

(事務局)

企業誘致については、全国で取り組んでいるが、条件等を考えると氷見市に新たな企業に進出して頂くのは難しいと思う。その中で、今氷見市にいる企業をいかに氷見市に居続けて頂けるか、また、規模を拡大して事業展開して頂けるかというところを中心にしていくことになる。先ほどお話しがあった第8次氷見市総合計画の中では、施策の評価シートの39番に企業誘致の推進と既存企業の育成の施策のKPIがある。1番目として、地元雇用に結びつく優良企業や研究機関等の誘致で、こちらの指標は氷見市内に進出した企業または研究機関への支援件数ということで、2019年に1件の目標で1件の支援をした結果になっている。2番目として、既存企業の事業拡大等の支援で、設備投資を実施した既存企業への支援件数ということで、2019年20件の目標で26件の支援をした結果になっている。このことからA評価となっている。新たな企業が氷見市に進出してきた訳ではないが、実際に取り組める状況として、今いる企業の規模拡大や氷見市外に出ていかないということを念頭においた目標としては、A評価という状況である。氷見市では企業誘致もそうだが、新たに自分で事業を起こして展開される方の支援や補助に力を入れて、働く場所がないのなら、自分で事業を起こして氷見市で頑張ろうという人に支援する制度も設け、働く場の確保に努めていくことも行っている。ただ、若い方が望む仕事が氷見市にないということも事実なので、どういったことができるのかは随時考えていかなければならないことである。若い方の人

口を増やす部分で働き場所というのは、一番の課題とっており、第9次氷見市総合計画でも行っていかなければならないことである。

(委員)

市の方が努力していることは重々分かる。ただ、射水市に企業が流れてしまった事実もあり、大変もったいない話だと感じている。

(委員)

建設業として求人を出したりしているが、建設業は昔からきつい、汚い、危険の3Kと言われていて、なかなか応募がない。従業員を雇いたくて求人を出すのが、給料面なのか、業種的に来てくれないのか応募がない。建設業で雇い入れる人数も減ってきている側面もあるし、もちろん人口が減っているし、仕事自体氷見市では減っているのだから、従業員を雇えないという面のあると思う。先端技術を持って、素晴らしい業績を上げている企業ばかりではないので、厳しいと感じる。

(事務局)

先ほど資料の中で、ぶり奨学プログラムの登録者のアンケートの話しを申し上げたが、昨年そういった学生を対象に大学卒業後氷見市に戻ってきたいか否かのアンケートを実施した。「戻ってきたい」、「できれば戻ってきたい」という学生が約9割いた。中には、やりたいことが氷見市ではできないからと言われる学生もいた。実際に戻ってきたいと思っても戻ってこれない状況もあり、地元に戻ってきているのは6割となっている。令和元年度卒業の学生については、少し状況が悪い。3年間のトータルで5割以上は戻ってきていると思う。この5割は、卒業後氷見市に戻って来て、市から助成金を受けている学生の数で、その他に公務員になって戻って来た方には助成の対象外という制度になっているので、公務員になった方も含めるともう少し戻ってきている方の数は増える。10年間の内に戻ってこれれば良いということで、今年度から3年間の社会実験として事業を延長している。その中で、引き続き事業をしていくべきか、あまり効果がないからこれで止めるかという検討も行わなければならない部分ではある。現在大学に行っている方の話しを聞くとまだ氷見市に戻って頂ける可能性はあるのかなと感じる。そういった方々が戻って来てくれる取り組みを続けていかなければならないと考えている。

(委員)

事業実績シートの中で、縁結び推進事業で2020年3,871千円の予算が計上されているが、具体的に何に使うのか。

(事務局)

地域振興課が所管で、事業の詳しい中身は把握していないため、後日、担当課に確認して、お答えする。

(委員)

柳田の区長をしている時に、平成26年から柳田の方に子どもが生まれたら祝い金1万円を出していた。市役所も出しているが、それはこれとは関係ないか。

(事務局)

関係ない。

(委員)

あくまでも縁結びを進めていく上での支援の事業費という事か。

(事務局)

そうである。

さて、総合計画24ページ、25ページをご覧ください。こちらに第8次氷見市総合計画の目指すまちの姿、まちづくりの基本理念と目指す都市像が書いてある。第9次氷見市総合計画の基本理念と目指す都市像をどうしたら良いかということを中心に本日はお話しをして頂けたらと思う。第8次氷見市総合計画の基本理念は、「まちづくり基本理念の考え方としまして、本市のまちづくりを展望する時、これからの10年間で発展の土台となる非常に大事な時期であると言えます。その為、市民、企業、行政等が協働して直面する様々な課題を克服し、未来につなげていくことが重要です。私達を取り巻く日本社会全体が厳しい変革期に入っていますが、寒ブリに代表される食、海から里山までに広がる豊かな自然、定置網漁業等の先人から受け継がれてきた歴史文化等、本市の個性を大きく花開かせながら、内外との積極的な連携を展開し、市民がふるさとに対し、自信と誇りを持ち、心のゆとりと温かみを感じて真に質の高い生活が実現できるまちを目指します。また、地域社会の中に色濃く残っている人と人との絆を大切に、地域力の向上に努め、地域での新たな支え合いの仕組みを構築すると共に全ての市民が心身ともに健康で幸せに暮らすことができる環境を整備し、安全・安心を実感できるまちづくりを実現します。」となっている。目指す都市像は、「人、自然、食を未来につなぐ交流都市氷見」というものを掲げて10年間まちづくりに取り組むということとしている。第9次氷見市総合計画について、このような部分をどのようにしていけば良いのかということについて、お話しいただきたい。

(部会長)

先ほどから委員の皆さんの話しをいろいろなことを思いながら聞かせて頂いた。私は、中国の小学校を見に行ったり、ソウルの小学校の取り組みを見たりしてきた。それぞれが何をしているかという、例えば中国の小学校1年生は入学式の次の日から英語の授業が始まる。非常に積極的に子どもたちが取り組んでおり、先生方もきれいな発音で英語を話される。先生にどこかに留学されたのですかと聞いたら、中国の先生方は1度も国外に出たことがないと言っていた。それだけの教育力を中国の学校が持っている。それと似たような状況がソウルの学校に行ってもある。氷見市という街は独特の地域性を持っている。能登半島の付け根にあり、おいしいものがたくさんとれる。また、氷見市を拠点に石川県、能登半島の方に観光したり等を考えると、もっともっと楽しい市になるのではないかという期待がある。それを引き出してくれるのが恐らく、若者であったり、子ども達であったりするのかも知れない。そういうところを大事にして頂けると良いと思う。私には男の子2人、女の子1人の3人の子供がいる。今、論田に住んでいて、長男だけが論田に残っていて、長野から嫁をも

らい地元に残って良かった。氷見市はとても温かいと思っている。そういう氷見市の良さを他の地域の人に知って欲しいと思う。私の息子は結婚した時に市役所の前で3、4枚写真を撮っていた。そのように氷見市を大事にしてくれる若者達が増えてくれることを非常に期待しているので、委員の皆さんからはぜひ子ども達や若者の背中を押して頂ければありがたいと思う。

(副部会長)

若者の意見を取り入れていくまちというのは大変良いことだと思うが、若い人の意見ばかりを取り入れていけば、それはいろいろ方向も変わっていくと思うので、それを年配の方々が若い人の意見を踏まえた上で、皆で作っていったらというのが一番良いと思う。若い人はいろいろと分からないことが多々あるので、そこを経験のある方々が、しっかり手を入れてあげて、それを踏まえて皆で考えてあげていけるようなまちにしていけたら、これからの氷見市はより良いものになっていくと思う。やったことがないから分からないことはこれから希望があるということなので、その希望を持てる都市というものにしていければ、これから先より良い氷見市につながっていく。そういう10年計画が良いと思った。

(委員)

私は母子保健推進員なので、小さな子ども達のお世話をしている。昨年は出生数が200人を切ったと聞いている。200人を切ったということは、その子ども達の総数が今の北中の全校生徒くらいの人数で、母子推進員の中では10年経ったときにこの子達がどのような環境で氷見市にいるのかという心配の声がたくさんある。私は初めてこの会議に参加させて頂いたが、市役所の方が本当に一生懸命勉強されて計画を立てて市民のために動いてくれていることに一番感動した。いろいろと発信されていたと思うが、私の中で素通りしていたことも多かったので、広報等もきっちり読んでいかなければと思い、市民として反省している部分もあった。私の息子の同級生に市の職員や自分で起業したりしている方がいる。その方達を見ていると若い力はすごいと感じているし、その方達が苦勞をしても順調に商売が発展していけたらと思い、そのための協力を商工会議所や市がして頂けたら、ありがたい。

(委員)

舟橋村は人口が増えたり、子どもの数等が増えたりしている。氷見市も市の特性を活かして若い人達が自慢できるような市にして頂きたい。

(委員)

事務局から基本構想、第8次氷見市総合計画での議論というお話だったが、学びによる豊かな人生の創造というのがある。生涯学習ということが1つあると思うが、一般的な例でいうと市民大学の講座にどれくらいの方が参加しているのか、学校で勉強するだけではなく、学校を離れてもこういう講座があると参加してみようということにつながり、それが自分の人生を豊かにすることにつながるのではないかと思う。富山県では県民大学で講座をしている。

(事務局)

今ほどお話しがありました市民大学につきましては、生涯学習の一環として中央公民館等で市民向けの講座はしている。そちらの参加者の人数等については、こちらで把握していないので、本日は回答できない。

(委員)

私は氷見高校で働いていて、ふるさと教育、地域課題の解決等を総合学習で担当している。小、中学校の教育が評価されている。私自身も素晴らしい取り組みがなされていると思っている。大学進学やキャリアを見据えている高校時代に活動していくことが学生につながると思っている。今実際に地域振興課と連携しているいろいろとしており、その土台はできている。小、中学校だけ留めたものではなく、小、中、高、大、更に大人になってという風な方向性で、子ども達が氷見市でどのように成長していくかという一連の流れを考えられればと思っている。小、中学校で頑張っているけど高校の先生達があまりしていなくてそこで急に子どもたちが離れていっている感じがある。県立と市立と分かれていることが連携のできていないところだと思うので、今連携の土壌ができてくるので、その対話も生まれたらと考えている。

5 閉会

(事務局)

本日は、部会長始め、各委員の皆さんには議事の進行に協力頂き、御礼申し上げます。限られた時間の中で、様々な議事の検討を頂いた。意見、質問が充分に出せなかったかと思う。その場合は、事務局である地方推進創生課に連絡頂きたい。また、本日の第2部会の他、先ほど説明にもあったが、11月20日に第3部会を開催した。また、27日に第1部会を開催する予定となっている。3つの部会の議事録を取りまとめたうえ、審議会の皆さんに送付し、情報共有させて頂く。また、皆さんから頂いた意見については、2月に開催予定としている、第2回総合計画審議会において、基本構想の素案に含めて提案させて頂く。

以上を持ちまして、第1回氷見市総合計画審議会第2部会を閉会する。本日は、ありがとうございました。